

会 議 録

会 議 名	令和5年度 山形市郷土館運営協議会
開催日時	令和5年7月13日（木）午前10時00分～11時20分
開催場所	クリエイティブシティセンターQ1地下1階交流ルーム1
出席者	委員7名 佐藤琴委員、佐藤美代子委員、志村直愛委員、竹原万雄委員、 長谷川多美子委員、山内励委員、渡邊晃委員（欠席 貞弘光章委員） 事務局6名 花輪文化スポーツ推進監、森次長(兼)文化創造都市課長、 齋藤課長補佐（兼）文化財係長、田辺主幹、 戸田郷土館会計年度任用職員、今のどか地域おこし協力隊員
傍聴者	傍聴者0名 記者0名
議 題	会長及び副会長の選出 報 告 （1）令和4年度山形市郷土館事業報告について 協 議 （1）令和5年度山形市郷土館事業計画(案)について その他
資 料	資料 令和4年度 山形市郷土館事業報告 資料 令和5年度 山形市郷土館事業計画(案) 資料1 令和4年度山形市郷土館月別入館者数及び郷土館入館者数の 推移 資料2 令和4年山形市郷土館アンケート調査 資料3 令和5年度山形市郷土館・郷土資料収蔵所 新収蔵品展チラシ

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 文化スポーツ推進監あいさつ
- 4 会長、副会長の選出
- 5 会長あいさつ

（これより、山形市郷土館運営協議会条例第6条の規定により、山内会長が議長となる。）

6 報告

(1)令和4年度山形市郷土館事業報告について

※事務局より、「資料 令和4年度山形市郷土館事業報告」に基づき、報告。

- 議 長 令和4年度の山形市郷土館事業報告についてご質問、ご意見等ありましたらお願いします。
- 委 員 一昨年度は大雪の被害があったようだが、昨年度はどうだったか。また、被害を受けて大雪への対策などは講じているのか。
- 事 務 局 廻廊の内側に雪が集まり、せり出して落ちる時に瓦を引きずって落として割れてしまうのが原因で、屋根の内側に被害が集中している。昨年度は雪が少なかったので被害はなかった。対策としては、せり出した雪庇を下から突いて落とすことが効果的であった。これまでは手作りの木製の雪べらで突いていたが、雪が多いとそれも効かなくなることがあった。雪が固くなくても効果的に落とせるように、新たにアルミ製の雪庇落としを購入している。
- 委 員 屋根が円形になっていて、雪が両側から詰まってきて落雪しない状態があるのではないか。スムーズに落雪するような備えは必要。上から落雪の状況を観察して対策を考えるのがよいのではないか。
- 事 務 局 塔屋の2階から写真が撮れるので、撮影してご相談したい。建築の専門家としてアドバイスをいただければと思います。
- 議 長 大学生の団体が6団体ほどあったようだが、どのような形で見学にきているのか。
- 事 務 局 東北芸術工科大学の建築を学ぶ学生や、絵画を学ぶ学生などが来ている。また、街の発展などを研究している仙台の大学の学生なども来ている。街づくりや歴史遺産、建物を素材として研究するなど3つぐらいの内容が中心である。
- 委 員 放送大学の学生を連れて見学にいったこともある。近代建築の講座があり、郷土館は近代建築の歴史の最高の教材である。
- 委 員 入館者数がコロナが収束して増加したとのことだが、入館者数の目標値のようなものはあるのか。
- 事 務 局 目標値は設定していない。
- 委 員 数値を見ると県立博物館とほぼ同じぐらいの入館者がある。令和3年度が2万人、昨年度が3万人を少し超えたぐらい。県立博物館が一番入館者数が多かったのが一番最初の年で5万人程度だった。縄文の女神の展示ができて4万人。入館料を徴収しているので、今年は4万人を目指そうとしている。
- 委 員 以前、郷土館に入館料を支払って入館した記憶がある。入館料を徴収していた際は200万円程度の収入があったようだ。
- 事 務 局 大人が200円、子どもが100円だったと記憶している。

委員 入館料が無料なのは来館者にとって良い事だが、維持管理が大変な面もある。入館料でなくても良いが、寄附のようなものを募っても良いのではないかと。有料でも維持管理を心配して入館料や寄附を支払う機運は以前より高まっている。何らかの形で寄附を受け付ける機会を設けても良いのではないかと。

委員 山形大学附属博物館でも、透明の寄附箱を設置している。ナスカの地上絵に関する展示をした際は、高額の寄付をする方もいた。応援したいという気持ちを受け止めて欲しいという方もいる。だが、地方公共団体だと寄附金の受入の処理が大変ではある。クラウドファンディングに取り組む自治体もある。改修や修理などのタイミングで、なにかしらイベント的にでも寄附を募るやり方もある。

議長 移築などがあれば膨大なお金がかかるので、その心配もある。

事務局 新聞報道もされたが、同じ市有施設の最上義光歴史館で雨漏りがあり、6月議会でその修理を予算計上した。その際、議会でもまるっきり無料というのはどうなのか有料化しても良いのではないかとという声があった。平成21年から無料にした経緯は、当時中心市街地の歩行者の数が減少していて、中心市街地にある市有施設の無料化により来館者を増やし、まちあるきをする人を増やす目的で、最上義光歴史館、文翔館と連携して無料化を行った。当時はそのような時代背景があって無料化の判断をした。時代に合わせて検討していく必要があるが、毎年当初予算計上の際に検討している。現時点ではまだその判断を変えるだけの材料はないので無料化が継続している。郷土館だけでなく、市所有施設全体にも影響するので、内部で引き続き検討していきたい。寄附についても、細かい手続きが必要で透明ボックスに入れて頂いた寄附をそのまま行政が使えるかという点でもハードルがあり、整理が必要。効率的で、市民や来館者などの納得の得られるやり方を検討していきたい。

5 協議

(1) 令和5年度山形市郷土館事業計画(案)について

※事務局より、「資料 令和5年度山形市郷土館事業計画(案)」に基づき、説明。

議長 事業計画(案)について、ご質問、ご意見がある方はお願いします。

委員 やまがた冬の芸術祭との連携について、やまがた冬の芸術祭の主たる会場は中央公民館などか。いろいろな文化施設で共同して事業などを行うのか。

事務局 やまがた秋の芸術祭については、昨年度から開催し始めたもので、主に山形市の中心部の施設や路上も含めて、市民の方々から身近に文化芸術に触れる機会を作りたいという思いで始まったものである。昨年度は9月から12月までの期間で開催した。2年目になる今年度は、それを冬まで拡大したいという考えで計画している。予定では9月から2月末までの間、山形市内の様々な会場で開催していく予定です。街なかの商店街でのイベントや、Q1、市民会館、中央公民館などでの作品展示などを考えている。郷土館においても昨年度からナイトミュージアムなどで盛り上げている状況である。今年度も、冬の芸術祭の開催に当たりナイトミュージアムを開催する方向で進めている。

委員 昨年度、千歳館でのライトアップがあり、テレビ取材などで評判となった。

それぞれのライトアップがバラバラでなく、回遊性のある方向に持っていかないと考えている。山形市のホームページ上でどこで何をやっているのか分かるようになれば、滞在時間の増加や回遊性が上がるのではないかと考えている。色々の情報を一カ所で見れて、それぞれのイベントが有機的に繋がるようになれば良い。

また山形アーカイブについて、9月と2月にアーカイブを市民に周知するイベントを企画している。9月はクリエイティブシティセンターQ1を会場としている。この、「ななはく」というイベントをお互いに告知できないかと考えていて、ちょうど9月と2月で時期も重なっている。山形アーカイブは街の色々なシーンを記録に残したいという活動を行っているので、情報が入ってくるのは助かる。何かしら連携できるようにしていきたい。

事務局 行政の一番悪いところは縦割りで、同じ時期にイベントをやっても連携がなされていないところが多くある。そういった反省も踏まえて、今年は秋の芸術祭に加えて、期間を冬まで伸ばして冬の芸術祭と長期間の芸術祭を行う予定。それに加えて、山形市の芸術文化協会も独自に山形芸術祭を秋の同じ時期に開催する。そことも連携を図り、秋と冬の芸術祭のスケジュール表の中に芸術文化協会の行う芸術祭も取り入れ、一緒にPRしていくように打ち合わせを行っている。その中で他のイベントも一緒にPRしていければ良いと考えている。

委員 学校現場では、山形の歴史や文化に誇りと愛着を持つ最初の入口を子どもに伝えたいと思っている。YouTubeでの動画公開や、アーカイブの作成、学校現場で使用するポータルサイトへ掲載していただいたりなど、ここで報告頂いたことを教員同士で共有できている。現在は教員から情報を与えるより、子どもたち自身でタブレット端末などを使用して情報を収集して学習していくスタイルになっている。分からないなりに子ども達は動画をみたりして調べて、それをきっかけに、家族と実際に郷土館を訪れて面白く感じたりしている。なので、YouTubeでの動画公開やアーカイブの公開などは、非常に役立っている。

議長 小学校教育にもずいぶん浸透していると聞いている。

委員 以前、郷土館を実際に見学できない場合のことをお話したら、教員のポータルサイトに動画を教材として入れて頂いたり、パンフレットをダウンロードできるようにしたりと、改善していただき大変役に立っている。

議長 タブレット端末などを使用した小学校での学習のまとめを整理したようなものはあるのか。

委員 そこまでは出来ていないが、主体的に学習できる材料があることは大変助かっている。また、教員の研修に文化創造都市課の職員の方に来ていただいたりして身近になってきているので、引き続きよろしくお願ひしたい。

委員 秋季企画展の説明で、「大学生やアーティストの目線から捉えた郷土館の新たな魅力を幅広い年代の方に見てもらおう」とあるが、新たな魅力とは、これから探すのか、これがコンセプトなのか。

事務局　　今回はルネサンス絵画研究会の教員や学生などに郷土館を描いていただいている。写実的なものもあれば、抽象的に捉えた絵画もあるということで、作品を制作していただいている。絵画を描く人から見た郷土館という意味で、何か新しい切り口が見つかることを期待している。

委員　　既に絵の制作は進んでいるのか。

事務局　　ゴールデンウイーク頃から制作が進んでいる。

委員　　芸術的な視点、価値というものは旧済生館についてはこれまでもあったと思うが、新たな魅力というのは大変良い。色々な方が見て館の新たな価値を見つけてもらって、それをさらに活用していくサイクルができるとよい。そのような意味で新たな魅力というのは良い言葉だと思った。

資料のアンケートの感想を見て面白いと思ったのが、「薬局に勤めているので来て良かったです」というもので、これも医療関係者から見た魅力で、これも一つの価値だと思う。歴史博物館ではなく、医療を取り扱う博物館としての特徴だと思われる。今回は芸術という視点のイベントだが、その視点を色々な形で変えていくと違った目線で新しい価値を見つけて、次に活かしていけるのではないか。

委員　　新収蔵品展は新しい展示品を見ることのできるととても良い機会で、夏休みの研究にも持ってこいだと思うが、8月20日に終了するのはなぜか。

事務局　　山形市の小・中学校の夏休みの終了に合わせている。

委員　　県外出身者には非常に違和感があった。県外からの来館者も多いのでぜひ8月末まで延長して欲しい。延長すると小学校で宿題の発表を聞いて、次の週に興味を持って来館する子もいると思う。

また、アンケートから見えることもたくさんある。今は紙ベースで回答していると思うが、QRコードからオンラインでアンケートを取ることにもできるようになっている。若い人の回答率も上がると思うので導入を検討して欲しい。

委員　　霞城公園の中にユリノキが3本だけある。5月から6月のはじめまで十日間ぐらいしか咲かない。花が木の上にあるので、ほとんど知っている人はいない。子どもたちにそれを見せると驚く。それが郷土館の玄関に1本、体育館の前に2本ある。

議長　　様々なご意見が出されましたので、事務局の方で整理をお願いします。事業計画(案)については賛同ということよろしいでしょうか。以上で協議を終了します。

6 その他

事務局　　事務局からPRになりますが、NHKのテレビ番組ブラタモリの収録が山形市でありました。収録は既に終了しているが、放送日が7月22日の土曜日である。テーマは「何度も生まれ変わる山形」で、山寺、山形城、市街地、文翔館という行程と聞いている。ぜひご覧いただければと思います。

7 閉会